

令和7年11月19日
(2025年)

保護者の皆さまへ

吹田市立南千里中学校
校長 生駒 靖子

令和7年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「令和7年度全国学力・学習状況調査」を実施し、7月終業式後に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学・理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1、教科に関する調査結果の分析

【国語】

(1) 概要

本校生徒の平均正答率は、全国平均値とほぼ同様である。

(2) 学習指導要領の領域別で見た状況・成果と課題

○話すこと・聞くこと

(成果)・「資料や機器を用いて、自分の考えがわかりやすく伝わるように話す」について全国値より本校の無解答率は低い。

・発言の理由や助言の意図を適切に選択することができる。

(課題)・正答率は全国値を下回っている。

○書くこと

(成果)・文章の意味に沿った漢字を書くことができる。

(課題)・「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にする」「読み手の立場に立って文章を整える」について無解答率が高い。

○読むこと

(成果)・物語文について、登場人物の関係について読み取れている。

・「表現の効果、構成や展開について、根拠を明確に伝える」について無解答率が低い。

(課題)・「文章全体と部分との関係」について無解答率も高く、人物像を深く探ることに課題が見られる。

○言葉の特徴や使い方に関する事項

(成果)・正答率は全国値を上回っている。

- ・特に「事象や行為を表す語彙についての理解」「文脈に即して漢字を使う」について、正答率が高くなっている。

(課題) 単元ごとの意味調べ、調べた言葉を使つての文章作りなどを継続し、漢字の意味と使い方を考える習慣を身につける必要がある。

(3) 成果と今後の改善点について

全体的に全国値と大差ない結果となった。選択式の問題もあり、無解答率は低い傾向が見られる。問題をじっくり読み、問いを再考することを普段の学習の中で意識して取り組んでいく必要がある。また、様々な意見を聞き、それに対して自分の考えの伝え方を工夫するなど、思考・判断・表現力を向上させるための授業づくりが必要である。

【数学】

(1) 概要

本校生徒の平均正答率は、全国平均値とほぼ同様である。

(2) 学習指導要領の領域別で見た状況・成果と課題

○数と式

(成果)・事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができている。

- ・式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができている。
- ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができている。

(課題)・素数の意味、理解に課題がある。

○図形

(成果)・証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができている。

- ・統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができている。

(課題)・ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することに課題がある。

○関数

(成果)・事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができている。

- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができている。

(課題)・一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることに課題がある。

○資料の活用

(成果)・必ず起こる事柄の確率について理解している。

- ・不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができている。

(課題)・相対度数の意味、理解について課題がある。

(3) 数学科における成果と今後の改善点について

正答傾向については、学習指導要領の各領域で全国値を上回っている。全体的に理解の深い生徒は多いと考えられる。基礎基本が定着し応用的なことも考えられる集団と、基礎基本定着に課題が見られる集団に二極化している。また、学習状況調査においては、「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の肯定的回答の割合は全国値を下回っている。数学を身近に感じられていないだけでなく、数学の見方や論理的思考を磨くことに有意義さを見出していないことが考えられる。

今後は、基礎基本の定着を徹底できるよう、抽象と具体の往還をインプット・アウトプットの両方で充実させることが大切である。複数の例を比較しながら数学的概念を構築する必要がある。上記で生徒の課題として挙げた「素数の意味」や「相対度数の意味」などの定義を踏まえ、基礎基本の定着を図るとともに、数学的概念をもとに、具体的な問題を解いたり、具体的な実験・操作の中で活用する必要がある。数学的思考を道具として使えることを実感し、数学と実社会との関わりを想起していけるよう、抽象化と具体化を繰り返す授業展開や単元設計などが求められる。

【理科】

(1) 概要

本校生徒の平均正答率は多くの設問において、全国値をやや下回る。

(2) 学習指導要領の領域別で見た状況・成果と課題

○「生命」を柱とする領域

(成果)・基礎的な知識を問う問題については理解できている。

(課題)・応用的な探究的問いについては課題が見られる。

○「粒子」を柱とする領域

(成果)・多くの問いにおいて化学分野における粒子の視点から問題を紐解き、解答できている。

- ・探究的な問いについても日ごろの生活や実験を通じて解答することができている。

○「エネルギー」を柱とする領域

(成果)・基礎的な知識を問う問題、計算問題については解答できている生徒が多い。

- ・日常生活と絡めた探究的な問いについてイメージができていない生徒が多かった。

○「地球」を柱とする領域

(成果)・全体を通して、全国平均を上回る正答率となっている。

- ・探究的課題にも解答することができている。

(3) 理科における成果と今後の改善点について

理科教育について、6～7割程度が得意、7～8割程度が好きと思いながら学習できしており、前向きな学習態度を持っている。また、既習内容についても7～8割程度も社会や生活に役立つと考えており、実生活と紐づけて学習する意義を持って臨んでいると考えられる。一方、多くの問いにおいて全国値を上回っていたが、既習事項の積み重ねに課題が見られた。

授業づくりでは、実生活と紐づけた実験、思考問題の提示などを行ってきたが、基礎的な知識・技能の定着にも注視した問題演習にも力を入れていく必要がある。

2. 全国学力・学習状況調査「生徒質問紙」より（●は課題について）

(1) 家庭生活について

- 「朝食を毎日食べていますか」に対する肯定的回答は9割程度で全国値とほぼ同様である。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」に対する肯定的回答は全国値を下回っている。
- 「学習塾や家庭教師の先生に教わっていますか（オンライン授業の場合も含む）」に対する肯定的回答は全国値を大きく上回り、7割を超えている。
- 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強していますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含まれます。）」に対して、2時間以上と回答している割合は全国値を大きく上回っており、そのうち3時間以上と回答した割合が2割近くある。
- 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」に対する肯定的回答は全国値を上回っている。
- 「読書は好きですか」に対する肯定的回答は全国値とほぼ同様に6割程度である。
- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」に対する肯定的回答は全国値を大きく下回っている。

改善・向上のために

- 朝食を採ること、適度な睡眠は学習意欲や学習効率が高まること、気持ちの安定、また、熱中症予防にもつながると言われています。規則的な生活習慣は落ち着いた学校生活を送るためのベースとなります。今後とも、生徒の成長期を支えていただきますようお願いいたします。
- 日々の家庭学習では、学習塾などの利用率が高く、時間をかけ、習慣化できていること生徒が多いようです。生涯を通じて“自立した学習者たる姿”をめざし、目的意識を持ちながら、主体的に学習に臨めるようにサポートをお願いします。
- 本校では“朝読書”を実施しています。毎朝、静寂の中で全学級が集中する姿がありますご家庭でもいつも傍らに読みかけの本がある環境づくりにご協力ください。
- 今年度は“地域行事へのボランティア”を生徒会が呼び掛け、夏祭りや市民体育祭、アドプトロード清掃活動へ参画する姿がありました。実際に地域の方との協働により自らの役立ち感や達成感といった実体験を重ねていってほしいと願っています。

(2) 自分自身について

- 「自分には、よいところがあると思いますか」に対する肯定的回答は8割程度あるものの、全国値を下回っている。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」に対する肯定的回答は6割程度で、全国値を下回っている。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「友達関係に満足している」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」に対する肯定的回答は9割を超えており、全国値とほぼ同様である。

改善・向上のために

□学校として

- 大阪府の進めるキャリアパスポート等も活用しながら自らの長所や短所を知り、さらにキャリア教育や進路指導により将来を見据えた学びにつなげていくよう、日々の学級・学年における集団づくりや学校行事等工夫していきます。
- 学習活動においても対話的な学びを積極的に取り入れることで、自己理解、他者理解を深め、ともに学べる集団づくりを基盤にさらに各々の自己肯定感を育てていきます。
- 学校行事や特別活動等においては、教科での学びを生かしながら、さらに主体的に行動し、仲間と共に同じ目標に向かって切磋琢磨し、やり切る経験をとおして、自己有用感や達成感、仲間意識を高めていけるように非認知能力の育成を意識していく必要があります。
- 学校生活や友達関係、普段の生活も含めて、大半の生徒が満足しているようすがうかがえますが、個々のニーズを踏まえて対応していかなければならないケースもあります。関係機関とも連携し、引き続き「南中生みなが楽しいと思える学校づくり」に努めていきます。

□家庭として

- 「いじめについては、いつでも誰でもどこでも起こりうるもの」という認識の元、教職員のアンテナを高く持ちながら迅速かつ丁寧に対応することを心がけていますが、ご家庭でもいじめに関する気づきがありましたらいち早く担任へご相談下さい。また、朝ごはん、就寝時間、起床時間などの基本的な生活習慣を整えていただくとともに、SNSや情報機器の取扱いについてはご家庭でのルールを確認するなど、中学生として適切に使用できるようにご協力をお願いします。

(3) 学校生活・学習について

- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対する肯定的回答は8割を超えており、全国値とほぼ同様である。
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」に対する肯定的回答は7割を超えているが、全国値を下回っている。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」に対する肯定的回答は9割を超えており、全国値とほぼ同様である。
- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」に対する肯定的回答は7割程度で全国値とほぼ同様である。

- 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」に対する肯定的回答は9割近くあり、全国値を大きく上回っている。
- 「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思いますか」に対する肯定的回答は7割を超え、全国値を大きく上回っている。
- 「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができると思いますか」に対する肯定的回答は9割近くあり、全国値を大きく上回っている。

以下は「1, 2年生のときに受けた授業で」

- 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」に対する肯定的回答は8割を超え、全国値よりも大きく上回っている。
- 「授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」に対する肯定的回答は9割近くあり、全国値よりも大きく上回っている。
- 「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」に対する肯定的回答は8割を超え、全国値よりも大きく上回っている。

改善・向上のために

学校として

- まずは居心地のいい学級がベースであり、安心・安全の学校となります。生徒と生徒、生徒と教員とのつながりを大切にした学校教育活動を実現していきます。
- 学習指導要領のめざす学力観をめざし、ICT機器の利活用や主体的・対話的で深い学びに向けた授業づくりのようすが生徒回答に大きく反映されています(*)。そのしかけとして、昨年度からタブレット端末を操作しながらのプレゼンテーションをいずれの学年でも生徒全員が経験を積んできています。今年度は探究活動として、1年生SDGs、2年生キャリア教育、3年生理科×○○をテーマに取り組み、各教科においてもプレゼンテーションの機会を多々設けています。また、今年度、本校においては市内中学校に先駆けてiPadの導入があり、専門分野の識見を有する講師を招いての教員研修を年間5回+α(操作研修)を実施し、教員のスキルアップを図っています。

*1, 2年生で継続して取り組んできた理科の探究活動により、理科の質問紙回答すべての項目において全国値を大きく上回っており、理科に対する興味・関心、科学的な物の見方・考え方、思考力・判断力・表現力等が育まれてきていることが顕著になりました。

3 今後の取り組み

☆学校教育目標

自ら学び、ともに繋がり、やり抜く生徒の育成

☆学力向上研究テーマ

「自ら課題を発見し、仲間と共に解決して、考えを深めよう」

- ・学習指導要領に沿った授業づくりを行いながら、生徒に求められる力の育成を図るべく、上記のテーマを据え、研究3年次とする。
- ・令和8年度から本市全中学校 iPad 導入に向けた先行導入校として、iPad を活用した授業づくりに積極的に取り組み、市内へ発信する。

- ・学校目標に基づいた研究や校内研修を生かしながら、教職員が日々の授業で“主体的・対話的で深い学びの実現”を意識した学習活動となるよう、教育センターとの協働の元、ICT の利活用を進めつつ、引き続き授業改革に取り組みます。(令和8年1月20日全学級市内公開授業に向け、iPad を活用した授業づくりを全教員が進めています。)
- ・3年生では数学および英語で習熟度別での少人数指導(1クラスをおよそ1対2に分割)を行っています。基礎基本の定着に注力し、よりきめ細やかな指導に努めます。
- ・道徳では全学年水曜日1限に実施し、担任以外の学年教員も参画したローテーション授業を行っています。授業の中で意見を交流し、多様な考えに触れながら自らの考えを深めていく「考え、議論する道徳」をめざします。
- ・総合文化発表会、体育大会を終え、教科での学びを生かしながら、仲間とともに主体的に協働し、集団としての成長も見られました。今後とも個々の学校生活への意識を一層高め、取組の充実を図っていきます。